

第1章

観光振興ビジョンの策定について

1. 策定の背景と目的

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は高見山地まで広大な地域を持つまちです。

戦国武将・蒲生氏郷によって開かれた城下町を中心に、江戸時代には参宮街道沿いの宿場町として、また、松阪商人の町として栄え、鈴の音と山桜を愛した国学者・本居宣長をはじめ、日本一の大商人と称された三井高利ら、多くの偉人を生み出したことでも知られており、勇壮な石垣が残る松坂城跡、豪商の邸宅、武家屋敷などが、当時を忍ばせています。南部を流れる櫛田川流域には、射和商人の邸宅などの町並みが残り、中山間地域では豊かな自然景観はもとより、その恵まれた自然環境を活かしたレジャー施設や宿泊施設が多く存在しています。さらに、東部一帯の平野部では、参宮街道がにぎわった当時の面影を残す格子戸の町並みや、北海道の名付け親とされる松浦武四郎の誕生地や記念館があります。

また、豊かな地形と温暖な気候を活かして「松阪牛」や「松阪茶」などのブランド品をはじめ、数多くの特産品を生んでいます。

松阪市では、これらの重厚な歴史・文化や美しい自然など、豊富な観光資源をもとに観光振興を図り、地域の活性化につなげていくことを目的に、平成 26 年 10 月に、観光振興政策の基本方針等を明らかにする「松阪市観光振興ビジョン(以下、本ビジョン)」を策定しました。

しかしながら、近年、伊勢志摩サミットの開催等により、今まで以上に三重県全体に注目が高まる中で、インバウンド(＝訪日外国人旅行者)の増加や旅行ニーズの多様化、あるいは、スマートフォンなどの普及に伴うソーシャルメディア(SNS他)利用の増加など、観光を取り巻く環境は大きく変化しています。

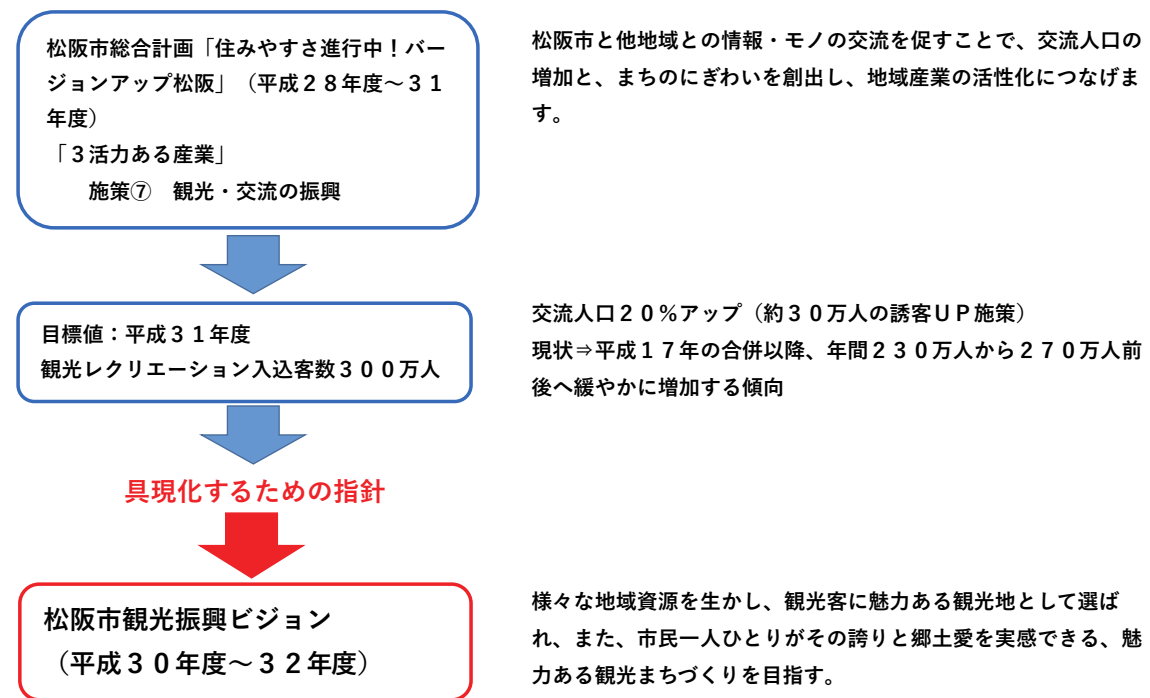
このことから、本ビジョンは、上位計画である「松阪市総合計画」の見直し(平成 28 年度)にあわせ、社会経済情勢や本市の状況などの変化を踏まえ、改定(平成 30 年 3 月)したものであり、数ある観光地から松阪市が選ばれ、また、市民一人ひとりが松阪の魅力を再発見し、その誇りと郷土愛を実感できる観光まちづくりを目指すための指針としていくものです。

2. 位置づけと計画期間

1) 位置づけ

本ビジョンの策定は、松阪市総合計画「住みやすさ進行中！バージョンアップ松阪」の単位政策「3 活力ある産業」の施策 「⑦観光・交流の振興」に位置づけられます。

また、総合計画における目標値を平成 31 年度の観光レクリエーション入込客数 300 万人としており、本ビジョンはこれを具現化するための指針とするものであることから同様の目標値とします。



2) ビジョンの計画期間

本ビジョンの計画期間は、平成30年度から2020年度(平成32年度)までの3ヶ年とし、2020年度(平成32年度)において次期ビジョンの検討と策定作業に入ります。なお、本ビジョンは計画期間においても情勢に応じて随時見直しを行うものとします。

